

## 現在の「おおじ農泊推進準備委員会」の取り組み

第1号、第2号によって大路地区の皆さまに、これまでの経緯や農泊推進とはなにか、またなぜ農泊が必要なのかという事をお知らせしてきました。

まだまだ分かりにくいところが多い中で、「農泊推進準備委員会」ではいま何を検討したり、どのように考え進めようとしているのかを伝えながら、皆さまと共に考えたいと思っています。

- ① まず今の大路地区の問題点は、高齢化が進み耕作放棄地が増えてきて、将来的にも空き家も増え、豊かな自然が徐々に失われようとしている現実です。
- ② その対策としてどのような事が必要か。一つには国が進めている農泊推進事業に取り組もうとしている事。大路では単なる農泊にとどまらず、特に農業体験や日帰り体験等を進め、同時に大路の方にもお手伝いしていただきながら収益を得ようとしている事。
- ③ そして、その実現には、補助金を利用し、その古民家を改修して多くの方々にその施設を利用いただき、収益を得ながらお互いにコミュニケーションを図り、大路地域を活性化したいという事です。

そう簡単にうまくいかないとは思いますが、考えたり話したり見ているだけではなく、できることから行動に移し実践していきながら、大路地区の農業振興や定住促進に結びつくことができると考えています。

- そのために農泊推進準備委員会では事業計画案を検討中です。 ①なぜ農泊に取り組むのか？  
②商品・サービスの具体的内容は？ ③想定するターゲットは？ ④どんな特徴とどのようなノウハウを使うのか？ ⑤どのようなタイミングで実施するのか ⑥誰がやるのか？  
⑦資金は？、売り上げや利益の目標は？などについて意見交換しています。

大路地区の農泊事業の経営方針と未来図を委員の意見から右図のようにまとめてみました。



# さとやまステイ ~経営方針~

## ★ 理念 Mission めざすこと

里山環境を守り、その魅力を通じて世界の人々にしあわせを届けます。

## ★ 価値 Value 提供する本質

- 地域資源に精通し、磨きをかけます。
- 地域の人と共に課題を共有し、解決していきます。
- 未来へ住み継ぐ里山の暮らしを創造していきます。

## ★ 展望 Vision 10年後に達成する姿

- 世界の人々から日本での滞在拠点として認知されています。
- 地域の人々が里山ステイの活動に誇りを抱いています。
- 若い世代が大路に暮らし、明るい笑顔が里山全体に広がっています。

## ★ 事業 Action とり組むこと

- 田舎体験事業 ・ 農福事業
- 飲食事業
- 宿泊事業
- 商品販売事業
- 古民家再生事業
- 空き家管理事業
- その他の事業

## ★ 目標 Goal 具体的な経営指標(要検討)

- 0年目：里山春夏秋冬のツアー企画、試験実施（黒豆収穫や講話付登山）
- 1年目：実績の積み上げ、副収入の可能性を広げる。情報整理と発信力の強化。
- 2～4年目：世帯数の約1割60世帯がこの事業に参加しながら月5万円の副収入が得られる仕組みづくり。関係人口や定住者の増加、空き家管理、空き家活用への動力創出。
- 5年後：300万/月(地域)  $300 \times 1.3 \approx 400$ 万/月(売上)  
ex. ・ 体験@2,000×4名=8000→500回 ・ 宿泊 @20,000(1棟)→200泊  
複数泊を前提とした滞在型農泊に取り組むことで利益を生む工夫を検討

# みんなで描こう さとやま大路の未来図

